

セル画-1

アニメが嫌いだとか、一度も見たことが無いという人はまずいないでしょう。男の子なら鉄腕アトム、マジンガーZ、タッチ。女の子ならアルプスの少女ハイジ、キャンディーキャンディー、ベルサイユのばらなどに夢中になったことと思います。またディズニーやスタジオジブリが送り出す数々の名作は、今も昔も人々の心に刻まれていることと思います。

アニメ(アニメーション)のことを動画とも言いますが、これは戦争中の名作として知られる「くもとちゅうりっぷ」の作者である政岡憲三が考え出した日本語訳です。本当は止まっている画像の連続なのに動いて見えるのは残像効果によるものであるのは誰もが知っていることです。

この残像効果を利用したパラパラ漫画をノートや教科書などに書いた覚えがある方も多いと思います。



政岡憲三作:くもとちゅうりっぷ 1943 年

パラパラ漫画

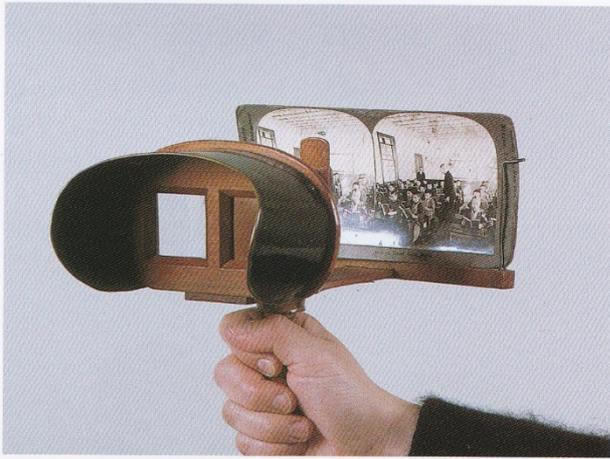
左:教育活動写真画 1898 年

右:日露戦争活動ポンチ 1904 年

これを更に進めたものが、1832 年に発明されたストロボスコープまたはフェナキスティスコープと呼ばれる動画装置で日本では驚き盤と呼ばれました。二年後にはイギリスの W.G.ホーナーがゾートロープを発明して、同時に何人もが同じ動画を楽しむことが出来るようになりました。

その後、フランスの E.レーノがゾートロープを元に 1876 年にプラクシノスコープを考案しました。これは円筒の中央に鏡張りの多面柱を設置して、スリットを通さなくても映像が動いて見えるようにしたものです。

さらにアメリカでは興行用の動画装置であるミュートスコープが発明されました。これはコインを入れてハンドルを回すとパラパラ漫画の要領で連続写真が一枚ずつ捲れて動く映像が見られるというものです。映画を発明したことで知られるフランスのルイ・リュミエールは家庭用のミュートスコープであるキノーラを考案して販売しています。



227 ステレオスコープ 明治



プラキシノスコープ 1876年頃



240 ゾートロープ 19世紀

ゾートロープ 19世紀



ミュートスコープ 19世紀末



キノーラ 1897年頃

このようにアニメーション(動画)は進歩を続けていきました。そして遂に 1895 年にフランスのリュミエール兄弟によって、世界で最初の映画撮影・映写装置シネマトグラフが発明されました。

世界で最初の映画アニメと言えるものは 1902 年に公開されたフランスのジョルジュ・メリエスによる「月世界旅行」です。ただしこの作品は最後のロケットが港に帰るシーンで切り絵を使ったアニメがあるという程度のものです。ストップモーションを駆使したものとなっています。

本当の意味で世界最初のアニメ映画と言えるものは 1902 年のフランス人、シャルル・エミール・レイノーによる「哀れなピエロ」、「一杯のビール」、「道化師と犬」です。この三本も純粋な意味では映画ではなく、ゼラチンフィルムに描かれた手描きの人物と背景とをプロジェクターで同時にスクリーンに投影したものです。この三点は 2015 年にユネスコの世界記憶遺産に登録されました。

さらにアメリカのジェームス・スチュアート・ブラックトンによる「愉快的な百面相」、「幽霊ホテル」なども公開されましたが、純粋な意味での世界最初のアニメ映画はフランスのエミール・コールによる「ファンタマスゴリー」(1908 年)だと考えられています。長編アニメ映画となるとアルゼンチンのキリーノ・クリスティアーニによる「使徒」だとされています。

このように二十世紀に入ると次々にアニメ映画が作られるようになったのです。ところで今回の題名が「セル画」なのに全くセルロイドに関する話が出てこなかったですね。次回は何故「セル画」が生まれたか、この技法にどのようなメリットがあったのかなどを書くつもりにしていますので、今回はここまでといたします。